

本県の現状

- ・これまで、現行の地域枠卒業医師において、産科の専攻を認め、産科医として地域へ派遣するなど、様々な医師確保対策に努めているが、**医師の不足によって、お産ができない、若しくは脆弱な体制となる医療圏が複数となり、周産期医療体制が危機的な状況**

●本県の新たな取組

- ・緊急対策として、**県外大学と連携した常勤医の確保**や和歌山県立医科大学への**周産期医療に係る寄附講座の開設**などを実施
- ・さらに、中長期的な取組として、県立医科大学に**産科など診療科指定の入学枠を設定**（令和5年度入学から）

●産科医確保対策の必要性

- ・今後、**医師の働き方改革**によって、特に産科医については、今以上に病院の医師不足に拍車がかかり、**地域の周産期医療体制が崩壊の危機**
- ・**少子化に歯止めをかける**ためには、地域で安心して**お産ができる体制の堅持は必要不可欠**
- ・令和5年度までの時限措置とされている現行の臨時定員において、さらに産科枠の設定を行うとなれば、他の不足する診療科の選択を狭めることになることから、**別枠として産科を設定することが必要**

本県の意見

現行の臨時定員とは別枠で、全国で地域における産科医の不足に対応する「地域枠」の設定を認めること

【和歌山県立医科大学】入学定員

恒久定員	一般枠	70
	県民医療枠(地域枠)	20
臨時定員	地域医療枠(地域枠)	10
計		100

+

提案

「産科」の地域枠設定

増員

（全国の各大学で）